



卒業証書・学位記授与式／修了証書授与式



短期大学 入学式／専攻科介護福祉専攻 入学式

CONTENTS

2023年度 聖句

「主を喜び祝うことこそ、
あなたたちの力の源である」
(ネヘミヤ記8章10節)

IZUMI
topics

和泉短期大学退職に当たっての43年間の歩み……………	2
入学式を迎えて……………	4
TOPICS……………	6
卒業生の活躍／地域連携について……………	7



和泉短期大学退職に当たっての 43年間の歩み

学校法人和泉短期大学
第6代事務局長 土橋 正文

私が和泉短期大学に入職するきっかけは、朝日新聞の日曜日の朝刊の求人欄でした。明治学院大学のゼミ仲間の多くが社会福祉職に就く中で、一般企業(アパレルメーカー)に就職が内定していた私は今のままでいいのかという悩みを抱え日々過ごしていた時に和泉短期大学事務職員募集の記事に出会ったのです。すぐにゼミの秋山先生に相談したところ、短期大学では熱心に福祉教育をしているキリスト教学校なので是非チャレンジしなさいとの言葉をいただきました。すぐに応募し、多くの応募者の中から選んでいただきました。その時の担当課長が現在の佐藤理事でした。この出会いが無かったら、全く違う人生を歩んでいたと思います。

私が入職した1980年の18歳人口は158万人(2022年度は112万人)、和泉短期大学の学生数は870人(2022年度は400人)でした。

短期大学全盛期時代である第2次ベビーブームの18歳人口のピーク時で1991年の205万人まで続き、1992年度の本学の受験生は1,470人で、414人の入学者(入学定員の1.65倍)がありました。短期大学数は、492校(2022年度は279校)、入学者数は238,100人、進学率は11.3%(2022年度は39,000人、進学率3.7%)です。ピーク時の1992年に比べると入学者数は約84%減少になり、未充足校は11校2%に対し、2022年度は短期大学の85.7%(239校)が未充足状況です。

以上のことから短期大学を取り巻く外的環境が大きく悪化して来ていることが分かります。質の高い保育者養成をしてきた、本学においても、2017年以降は入学定員を充足させることができない状況に呻吟していました。

本学の原点である建学の精神(キリスト教信仰による教育と人格形成)、その具現化としてのスクールモットー(愛と奉仕)は、ララ物資の配給の精神からきていることは、機会あるごとに職員に伝えていきます。CCF(基督教児童福祉会)のクラーク博士、ミルズ博士、バット博士は、第2次世界大戦敗戦後の日本の子どもたちを救済するためにアメリカの民間団体(アジア救済公認団体)が自分たちの食べるものを削って栄養価のある食料を船便で輸送してくれた物資の配給等を日本で担当していただきました。クラーク博士は、子どもたちを支援する保育者の再教育をする機関として、本学の前身の「バット博士記念養成所」を創設していただきました。まさに和泉短期大学は、神様が創設したキリスト教学校であり、67年を経過しても、その精神は、脈々と教職員、学生、卒業生に受け継がれているのです。そこに和泉短期大学の存在意義(パーパス)があるのです。

私が、第6代事務局長として第5代佐藤建夫事務局長(現理事)から引き継ぎを受けていたまさにその時に、2011年3月11日に東日本大震災が発生しました。今後、予測不可能な時代を想像させる、私にとっては今でも忘れることができない時であり、宿命に耐えて、使命感を持って和泉短期大学の事務局長職を務めることを決

断した時でした。

事務局長時代(2011年度～2022年度末)の12年間の主な出来事を次に掲げます。

①事務職員の質のさらなる向上です。先代の佐藤理事が法人組織の事務体制を確立していただいていたため、私は事務職員体制をさらに強化する為に、個々の職員の専門性の向上を目指し、目標チャレンジシートの導入と自己評価、年2回の面談、定期的なSD研修の開催、職員の和泉でのエンゲージメントを高めるためにベストオブスタッフ賞の創設を行いました。まさに事務職員は、事務屋でもなく、事務方でもない大学職員としてアイデンティティを持つべきと考えているからです。文部科学省も事務職員の職務の位置づけとして設置基準では「事務を遂行する」、学校教育法では「事務を司る」に改正されています。

②法人名の変更です。理事会で慎重審議された結果、文部科学省への届出をしましたが、原点を大切にしている本学においては、現在もこの論議がされています。

③収容定員の変更 2017年度から入学定員を満たすことができない状況が継続したため、本学を取り巻く環境をSWOT分析した結果、この状況下で、保育者養成校として250人の入学定員を満たすことはかなり困難であることを確認したため、理事会、評議員会の審議を経て2022年度から文部科学省に収容定員の変更届を行いました。給付型奨学金の確認大学になる為の条件を満たすため等、適正な収容定員の充足が必要でした。この届出は、大学は45%が入学定員未充足、短期大学は85%が未充足の状況を見れば、適正な対応であったと考えます。ただ、2020年3月の学位記授与式を感染拡大のため中止にせざるを得なかったことは、卒業生には申し訳なく思います。

④文部科学省の矢継ぎ早の教育改革。2015年の学校教育法の改正による学長のガバナンス強化、設置基準の3回目の大改正、2020年私立学校法改正後もさらなるガバナンス強化による私立学校法の改正が2023年成立し、2025年4月1日施行など、高等教育機関としての質保証も求められているため、12年間で学内の諸規程等を369本の制定・改正、中期計画(5年)の制定、学校法人ガバナンスコードの制定がされました。

⑤2020年1月に新型コロナウイルス感染症の拡大が世界を脅威に包み、現在までの3年間は未曾有の経験であり、本学の学生のみならず多くの学生の学修を困難なものにしました。本学は、新型コロナウイルス緊急対策特別委員会を中心に学生部長、教務部長のきめ細やかな

略歴

1980年 3月	明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
2003年 3月	茅ヶ崎リハビリテーション専門学校(通信制)社会福祉専攻卒業
2007年 3月	桜美林大学大学院国際学研究所修士課程 大学アドミニストレーション専攻(通信制)修了
1980年 4月	和泉短期大学勤務 (教務課配属を経て教務課長、経理課長、管財課長、経理・施設ユニットリーダー、広報渉外ユニットリーダー、事務局次長、第6代事務局長)
2011年 4月	学校法人クラーク学園理事、評議員
2015年 4月	学校法人和泉短期大学理事
2023年 3月	学校法人和泉短期大学事務局長任期満了により退職
	学校法人和泉短期大学理事、評議員 退任
4月	学校法人和泉短期大学評議員 就任
2023年 4月	学校法人東京神学大学事務局長 就任

表彰

2010年 5月	学校法人クラーク学園30年永年勤続表彰
2010年10月	短期大学教育功労者表彰 文部科学大臣
2013年11月	一般社団法人全国保育士養成協議会 教職員表彰
2016年 7月	一般社団法人キリスト教保育連盟 教職員表彰
2021年 8月	一般社団法人キリスト教保育連盟神奈川部会 永年勤続表彰

資格

2004年 3月	社会福祉士(第42043号)
----------	----------------

対応により、パンデミックが起らなかったことは幸いでした。

⑥以上の他にも、2013年度の労働基準監督署の「臨検」を経験しての教職員の適正な労働時間の確保など、各省庁等の対応など事務局長の孤独を痛いほど経験してきましたが、この経験があったからこそ、20年間で10回の大学・短期大学基準協会の認証評価の認証評価委員として役割を果たせたと思います。

事務局長として最後の2022年度は、和泉短期大学の将来構想や専攻科の存続の再検討などを理事長の下に教授会、理事会、評議員会、職員など法人、短大が一体となって慎重に議論した結果、教職員がワクワクできる教育内容になったと思います。卒業生は2023年3月31日で20,036人になり、その8割の卒業生と関わることが出来たことは、私にとって大変光栄なことです。

和泉短期大学の原点を大切に、新たな教育課程の取り組みは2023年度で67周年を迎えるのに相応しい新たな出発になると思います。

学校法人和泉短期大学で43年間の務めを終える事ができたことを主なる神様、教職員、役員、評議員のみなさまのお支えがあつてのことと感謝するとともに、第7代事務局長の平塚さん、事務局次長の深町さん、曾根さん、教職員のみなさまが保育・福祉に特化した質の高い保育者養成を行う使命感を持っていますので、その結果は卒業生が必ず現場で出してくれるものと確信をしております。

2022年度表彰者

眞鍋記念奨学金（後期） 讃岐和家記念賞

2年 新井 涼

（県立綾瀬高等学校 出身）



二年間を振り返り、学びも学生生活も本当に充実したものでした。そこには友人や先生方のあたたかい支えがあったからこそだと実感しております。学生としての生活は終わりますが、和泉での学びは人として大切なことも多くありました。これから入学・就職・就職とそれぞれの道を歩みますが、実感できる場面が来ると強く思います。

和泉での学びと出会いを糧に自分らしく邁進して参ります。

眞鍋記念奨学金（後期）

1年 齋島 咲希

（県立橋本高等学校 出身）



この1年を振り返ると、意欲的に学び、多くの学びを得ることができたと感じます。特に実習では、これまで学んできたことが実践できたことへの達成感を味わい、また今後の課題を知ることもできました。今後も、支えてくださる周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、理想の保育者像を目指し精一杯頑張っていきたいです。

1年 矢作 彩寧

（県立橋本高等学校 出身）



今回、眞鍋記念特別奨学生に選出されたことをとても光栄に思います。選出して頂けた事は私の力だけでな

く、共に学びを深め合った仲間がいたからだと思います。後期は和泉での学びを活かし、実習で自分の課題を見つけたとともに自分の強みを知ることが出来ました。これからもこの結果に満足せず、残り少ない学びの時を大切に、精進して参ります。また、自分が大切にしたいものとは何か追究し続けたいと思います。

2年 中畑 望華

（県立上溝南高等学校 出身）



和泉での学生生活は、自分の夢に向かって、常に新しい知識や価値観を吸収していった2年間だったと感じています。共に学び、努力してくれた友だちや、学びやすい環境を作ってくださり、進路決定にも親身になって相談に乗ってくださった先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。和泉で得た学びや出会いを大切に、これからも精一杯頑張りたいと思います。

専攻科 介護福祉専攻 佐藤実沙季

（県立相模原総合高等学校 出身）



専攻科での一年は、振り返るととても短い時間でしたが沢山のことを学ぶことができました。先生方に支えられ、同じ目標を持つ友人たちがいたおかげで有意義な学生生活を送ることができたと感じ、とても感謝しています。

和泉で学んだ三年間を信じ、これから精一杯頑張っていきたいと思います。

讃岐和家記念賞

2年 宮内 美空

（都立松が谷高等学校 出身）



この度は、このような素敵な賞をいただくことができ、大変うれしく思います。

この2年間を振り返って、たくさんの人に出会い支えられ、自分自身としてまた一歩大きく成長することができたと感じています。和泉で感じた人の温かさを今度は自分が子どもやその家族、自分の身近にいる人に届けられるように、日々精進していきたいと思います。

中島武夫記念賞

2年 高須 実来

（県立荏田高等学校 出身）



この度は中島武夫記念賞という素敵な賞に選んでいただき大変嬉しく思います。和泉での大学生活は共に切磋琢磨した仲間や、丁寧に優しく関わってくださった先生方のおかげで充実したものになったと感じています。これからは、愛と奉仕の思いやりを常に持ち、子どもたちの力になれるよう尽力していきたいと思います。

学長賞（後期）

2022年度学友会執行部

2年 出村 桃

（県立鶴見高等学校 出身）



コロナによる制限がある中でしたが、学友会ではよりよい学習環境作りを目指して活動をしていました。達成

出来ない事もありましたが、土台を作った次の世代に引き継ぐ事が出来ました。この活動を通して多くの人に支えられて学校生活を送れていた事を実感しました。今後も人との繋がりを大切にして新しい分野の学びに励みたいと思います。

2022年度真珠価値探究プロジェクトチーム

2年 横山 綾音

（県立上溝南高等学校 出身）



この度は、このような賞をいただき大変嬉しく思っています。この活動は昨年の秋頃から全国の様々な大学と真珠の良さ等を考えてきました。

毎月動画を作成するなど学校生活との両立が難しいこともありましたが、学年関係なくチームで連携し頑張ってきたからこそこの賞ではないかと感じています。ぜひ、来年度もこの活動があったら頼もしい1年生と新入生で協力し、一生懸命頑張ってもらいたいです。

学生ボランティア活動 奨励奨学金

2年 高橋 芽衣

（都立小川高等学校 出身）



ボランティアで、私は自分にも誰かを支える事が出来るのだと学びました。コロナが落ち着き、人との関わりが再開し始めた中で、より関わることを楽しめました。私は、老若男女問わず関われる様になりたいため、専攻科へ進みます。そして、人との関わりを通して繋がりを、私はこれからも大切にしていきたいと思います。

2022年度後期 学修奨励奨学金奨学生

金城 奈々 / 菅原 愛子 / 米山 璃華 / 霜山 碧 / 椎野 陽真梨 / 依田 沙羅

第59回入学式を迎えて



新入生のことば



私は高校で進路選択をする時、保育の道に進むべきか、福祉の道に進むべきか悩んでいました。そんな時に和泉短期大学のオープンキャンパスに参加し、保育と福祉の両面から学ぶことができると知り入

学を決意しました。また、実習授業も豊富にあるため、子ども達との関わりを通じて実践力を身に付けていきたいです。2年間で幅広い視野を身に付け、全ての子どもに平等な保育が提供できるよう、何事にも全力で取り組んでいきたいです。

児童福祉学科 武田 渚沙

(県立上溝南高等学校出身)



私が児童福祉学科へ進学したいと思ったのは、保育分野だけでなく、福祉に関しても多くの学びや知識を得ることができると思ったからです。また、子どもたちだけでなく保護者の方にも親身になっ

て寄り添い、信頼される保育者になりたいと思っています。そのためには、授業内で教わるだけでなく、自分でもさまざまな本や資料を調べて学習することが重要だと考えています。2年間で、保育者としての自覚をもち、日々意欲的に学習に取り組んでいきたいと思っています。

児童福祉学科 本間 星那

(横浜隼人高等学校出身)



先の3月に児童福祉学科を卒業し、新たな気持ちで専攻科介護福祉専攻に進学しました。私は障害児や高齢者へのケア・支援を学びたいと考え進学を決意しました。専攻科で学ぶことで、現場に出た際

に幅広い対応ができるようになります。それには日々の積み重ねが大切です。先に社会で活躍している同期たちに比べ1年間多く学べることに感謝して、専攻科の仲間と残りの1年間を楽しみながら国家試験の合格を目指してまいります。

専攻科介護福祉専攻 白井 一輝

(日本工業大学駒場高等学校出身)

和泉短期大学入学式祈禱

チャプレン(准教授) 和寺 悠佳

入学式は、礼拝形式で行なわれ、チャプレンが祈禱をささげます。和泉短期大学が神様と共にあることを覚え、学園に連なるすべての者が祈りを合せて、この年度の歩みを進めて参りたいと思います。

〈祈禱〉

和泉短期大学のまことの創立者であられる父なる神、
あなたの御名によって建てられた和泉短期大学を祝福し、ここに執り行なわれます入学式を御心になうものとしてください。

あなたは和泉短期大学を建ててください、ここに学ぶ者たちを集めてくださいました。今日、和泉短期大学に入学する一人ひとり、あなたによって保育・福祉の担い手となるとい志を与えられ、ここへと招かれて参りました。新入生の志を祝し、守り導いてください、これを全うするために必要ですべてのものをも与えてくださいますようにお願いいたします。

この入学式は、受難週の中で行なわれております。あなたは、愛する独り子、御子イエス・キリストを、私共の罪の贖いとして、ただ十字架にかけるために、この地上へと遣わしてくださいました。御子は、父なる神の御心に従い、幼子を御自分のもとに呼び集めて祝福し、病や苦痛に苦しむ人々を癒し、低く虐げられた人々に寄り添い、すべての人を愛し、すべての人にお仕えする歩みをなさいました。さらに御



子は、十字架において御自分の命を私共のために差し出して、私共の罪を赦してくださいさるほどに、私共を愛してくださいさいました。御子イエス・キリストによって、私共はあなたの愛を知らされました。すべての者が、あなたに愛され、互いに仕えあうように望まれていることを知らされました。

あなたの愛から、保育・福祉の営みが誕生したことを覚えさせてください。新入生の一人ひとりが、神を愛し、神に仕え、人を愛し、人に仕えた御子の姿を示す十字架を仰ぎ、あなたから与えられている愛と罪の赦しに励まれ、御子に倣った「愛と奉仕」に歩む者とされますようにお導きください。キリストの泉である和泉短期大学において、命の泉である御言葉に聴き、御言葉に立って、あなたによって与えられた使命を全うしていくことができますように、御言葉の恵みを与え続けてください。そして、ここを巣立つときに、キリストの香りを放ち、あなたの栄光を指し示す者として、あなたが用意してくださいさる場へと遣わされていくことができますように、和泉短期大学での日々を守り、支え、導いてください。

ここから始まります、和泉短期大学での、新入生の歩みのすべてをあなたにお委ねし、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

2023年度 新入生研修会

和泉短期大学の建学の精神は「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」です。4月7日(金)に、新入生研修会を開催しました。和泉での学生生活の始まりに、今後の学びの土台を築くためのプログラムです。

和寺チャプレンによる宗教部オリエンテーションに引き続き、日本基督教団千葉本町教会副牧師である森下滋先生による『愛は絆たがいに仕え合う 互いに認め合う』と題した音楽講演会を行いました。

ジャズピアノリストでもある森下滋先生は講演会の中でご自身のプロフィールや、キリスト教の愛について語られ、ピアノ演奏は親しみのある曲から、賛美歌まで幅広く演奏されました。講演会の最後は、新入生とともに先生の伴奏による賛美歌を賛美し、ピアノの音色とともに皆の賛美が和泉クラーク・ホールに響きました。

新入生が、和泉短期大学での学生生活を支え導く神様の愛に触れるときとなりました。



TOPICS

同窓会いずみ第13回通常総会開催

2023年2月18日(土)和泉短期大学3号館学生食堂に於いて、2022年同窓会いずみ第13回通常総会を、3年振りに全対面で開催し、21名の参加がありました。

同窓会いずみ曾根監事による開会祈祷で始まり、学校法人和泉短期大学須田拓理事長挨拶、和泉短期大学佐藤守男学長挨拶、同窓会いずみ川井昶彦会長挨拶に続き、2022年活動報告、決算報告、監査報告、2023年活動計画(案)、予算(案)、について審議し、全て原案どおり承認されました。

総会後には、43年間和泉短期大学に奉職し、同窓会活動に多大なご尽力を賜り、本年3月末日で退職される土橋正文事務局長を囲み、卒業生を代表して15期卒業生の羽柴さん、26期卒業生の遠藤さんから、学生時代の土橋さんとの懐かしいエピソードをお話していただきました。



和泉短期大学 第二保健室開所式

2023年3月13日(月)和泉短期大学1号館1階に第二保健室が完成し、開所式を行いました。

本学は、現在の保健室に加え、複数の学生の体調不良時のニーズにより第二保健室を設置しました。第二保健室開設にあたっては、2020年度、2021年度の校友会(卒業生)から保健室環境整備費として積み立ていただいていた貴重な資金を使わせていただきました。

開所式には、2022年度校友会会長、副会長立ち合いのもとに、理事長、学長、チャプレンを始め、多くの教職員が参加して執り行われました。



2年生の父母会役員に記念品を贈呈

2023年3月14日(火)学長室において、2年間父母会役員としてご尽力いただいた2年生の父母会役員6名の皆様に、佐藤学長が感謝の意をお伝えし、渡辺和子著「置かれた場所で咲きなさい」に、佐藤学長のサインをし、記念品を贈呈しました。

役員の皆様、2年間ありがとうございました。



2022年度 卒業記念品贈呈

2023年3月13日(月)卒業感謝礼拝後、第57回卒業生並びに第13回専攻科修了生を代表して、出村桃学友会会長より佐藤守男学長に卒業記念品の目録が贈呈されました。

今年度の卒業記念品は、AEDおよび、学生に関する施設整備費の積立金です。

在学生のために、大切にに使わせていただきます。



第24回おもちゃインストラクター養成講座開催

2023年3月2日(木)、第24回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生21名が受講しました。

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会のおもちゃコンサルタントマスター山岡千秋先生のご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに、世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。

コロナ禍のなか、今回は、会場での講師・受講者の「三つの密」の回避や、「人と人との距離の確保」、「マスクの着用」、「手洗いなどの手指衛生」といった感染拡大防止対策を行い、安全に配慮しながらの開催となりました。

受講を終えた全員に、認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。次回は2023年8月の開催を予定しています。



第35回 介護福祉士国家試験 15名合格

第35回介護福祉士国家試験の結果が、2023年3月24日(金)に発表され、和泉短期大学 専攻科 介護福祉専攻の学生は16名受験し、15名合格しました。

合格基準は総得点125点に対し、得点75点以上の方です。合格率は84.3%。和泉短期大学の合格率は93.8%です。

コロナ禍の苦しい1年間、一生懸命、真摯に授業、実習そして国家試験対策に取り組んだ成果です。合格おめでとうございます。



創立67周年「創立記念礼拝」

和泉短期大学は創立67周年を迎え、2023年5月15日(月)、創立記念礼拝をおさげしました。和泉短期大学の創立から今日までを守り導いてくださった神様を賛美し、「愛と奉仕を生み出すもの」と題するメッセージを通して御言葉を聴きました。須田拓理事長により、神様が、イエス・キリストを十字架にかけられるほどに私たちを愛してくださっていることが分かること、私たちは神様に愛されている者として、目の前の一人を愛する者とされていくのだと、和泉短期大学のスクールモットー「愛と奉仕」の根拠が解き明かされました。和泉短期大学は、これまでも、これからも、「愛と奉仕」の精神を持った保育・福祉の働き人を、送り出していきます。



2023年度学校法人和泉短期大学「創立記念フェア」を開催

2023年5月17日(水)に、「2023年度創立記念フェア」(通算31回目)を開催しました。

イベント内容

- ・お弁当100円…「タコライス」「オムハヤシ」
- ・キャンパスコンビニ 全商品20% OFF
- ・250円以上購入者にはハズレなしの抽選

お弁当(100円)は人気のため事前販売で完売し、キャンパスコンビニも多くのお客様が大盛況でした。今後も、楽しいイベントを実施してまいります。



卒業生の活躍 (第26回)

明治学院大学 社会学部

(一九九六年三月卒業生) 准教授 三輪 清子さん



明治学院大学
社会学部社
会福祉学科
で、児童福祉

を教えています。和泉短期大学に通っ
ていたころは、自分が大学で教えるこ
とになるとは思っていませんでした。

和泉短期大学卒業後は、児童養護
施設で保育士として働いていました。

その中で、子どもを通じて間接的に素
敵な里親さんとの出会いがあり、子ど
もは家庭で育つたらいいな、という思
いを持つようになりました。児童養護
施設には2年勤めただけで退職しまし
たが、退職後、私の実家が里親家庭に
なり、私も、結婚するまでの約7年間、
実家に委託された子どもたちと一緒に
暮らしました。私は、実家から通える
近所の学童保育所に指導員として勤め
ていましたが、3年後、Au Pair
というワーキングホリデーに似たプロ
グラムに参加し、渡米しました。1年
間のアメリカでの生活の中で、養子縁
組した子どもや里親に委託された子ど
も達が多くいること、当時日本では珍
しがられ、奇異の目でみられた里親と

いうものが、ごく自然に存在すること
を知りました。なぜ日本では里親委託
が広まらないのだろう、と疑問を持っ
たことが、のちの大学院の進学、現在
の私の研究につながっています。そし
て、現在は、私自身も里親をしています。

和泉短期大学在学中は、とても楽し
い日々だったと思います。実習で
の出来事や出会いはとりわけ印象に
残っていますし、和泉短期大学に共に
通った仲間との思い出もたくさんあり
ます。また、和泉短期大学の先生方は、
講義だけでなく、対人援助における理
念を、2年間の時間をかけて少しずつ
伝えて下さったと思っています。そし
て、そのことが、私が卒業後に勤めた
職場で抱いた疑問や挑戦していこうと
する思い、また現在に至るまでの対人
関係に影響していると感じています。



地域連携

相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定証授与



児童福祉学科2年
吉田 茉那さん
＜ボランティア博士＞



児童福祉学科2年
高橋 芽衣さん
＜ボランティア博士＞



児童福祉学科2年
林 愛恵さん
＜ボランティア学士＞



児童福祉学科2年
杉本 陽菜さん
＜ボランティア学士＞



児童福祉学科2年
秦 朱里さん
＜ボランティア学士＞

2023年2月22日(水)相模原市立産業会館にて「相模原市地域活動・市民活動ボランティア認定制度認定証贈呈式」が行われ
ました。本学は井狩芳子教授(地域連携推進委員会委員長)、学生4名が出席し、本村賢太郎市長から認定証が贈呈されました。

この制度は本学と相模原市との包括連携協定に基づいて在学中に一定以上の地域活動・市民活動を行った学生に対して相模
原市から認定証が贈呈されるものです。本年度は2年生5名が認定されました。和泉短期大学はこれからも学生と共に地域に
貢献してまいります。

『国際ソロプチミスト相模』2022年度Sクラブ、シグマソサエティ助成金贈呈式

2023年3月2日(木)和泉短期大学 理事長室にて、『国際ソロプチミスト相模』(黒川好美会長、
永保恵子副会長)から和泉短期大学(佐藤守男学長)に対し助成金の贈呈式がありました。

国際ソロプチミスト相模から本学に対しての助成金(60,000円)は、2005年度から始まり本年
度で18回支援していただいております。

2022年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、ハンドベル活動が思うように出来ま
せませんでした。ポストコロナに備えて活動費等のハンドベル・クワイア活動に使用させていただき
ます。



2022年度『教育環境充実資金募金』報告

2022年度「教育環境充実資金募金」については、教育活動等に対して、631,000円を充当させていただきました。

ここに2022年度教育環境充実資金募金報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

募金目標額	10,000,000円	ご寄付者総数	53件
募金期間	2022年6月1日～2023年3月31日	寄付金総額	631,000円
寄付者一覧(敬称略) <2023年2月16日～2023年3月31日>	募金対象事業		
国際ソロプチミスト相模 会長 黒川 好美	・1号館 学習成果の可視化システムの導入		
以上1件	・1号館 教室照明器具 LED電球交換工事		
	・1号館 大教室 ウイルス除去防臭装置設置工事		

2022年度 和泉短期大学『愛のいずみ基金奨学金募金』報告

2022年度「愛のいずみ基金奨学金募金」報告を致します。多くの皆様にご賛同いただき、心から感謝申し上げます。

募金目標額	3,000,000円	寄付金総額	1,593,000円
募金期間	2022年6月1日～2023年3月31日	募金対象事業	経済的事情により修学困難な学生を支援するための本学独自の給付型奨学金基金
寄付者一覧(敬称略) <2023年2月16日～2023年3月31日>	奨学金実績		
嶋田 順好/森 三樹	2022年度は、給付条件に合う学生がいな		
以上2件	いため頂きましたご寄付は2023年度に繰		
ご寄付者総数	59件	り延べさせていただきます。	

守られていることを実感すると共に、和泉で「保育者を養成する」ということの意味に気づかされたように思います。

教職員の皆様には、右も左も分からない私をいつも温かく支えていただきましたこと、心より感謝申し上げます。今後も、ご教授いただいたことを糧に励んで参ります。本当にありがとうございました。



和泉短期大学という、児童福祉の伝統ある養成校で実習サポーターの任に就かせていただくことが決まってから、その責任と自覚を持ちながら努めてきた2年間でした。

学生たちは、期待と不安を持ちながら実習に向かい、そして必ず、大きく成長して大学に帰ってきます。その姿を見る度に、和泉の学生は実習先の先生方や地域の皆様に支えられ、

実習サポーターセンター 助教 安西 美咲

モットーである「愛と奉仕」を率先して実践すべきであることを教えてくれたのは、学生の皆さん一人ひとりでした。24年間で振り返ると、本当に多くの方々に支えられてきました。心から感謝を申し上げます。ありがとうございました！



私は1999年4月に和泉短期大学の教員として採用され、以来24年にわたり社会福祉系の科目を担当させていただきました。この度、母校である淑徳大学に副学長・教授として赴任することとなり、愛着ある和泉を去ることとなりました。

24年間の一番の思い出は、児童福祉専門職を目指す多くの学生の皆さんとの出会いです。教師である鈴木こそがスクールの

児童福祉学科 教授 鈴木 敏彦

学内歩数は一日6千歩前後。8千歩を目指し、その調整をすることも日々の楽しみでした。新年度より新しいライフステージが始まります。今後、どのような活動で8千歩が紡がれるのでしょうか。振り返れば、歩数計自体もその状態を大きく変化させています。神様に委ねつつ、まだ見ぬ我が将来を楽しみに歩きます。皆様ありがとうございました。



2023年の年明けとともに、私は38年間で過ごした研究室の本格的な片付けを始めました。通常なら、実習巡回/学年末事務作業/研究活動の時期ですが、今年ばかりは片付け三昧の日々となりました。最も多かった返却物品は歩数計。私の研究にとって大切な用品だった為、多少の感傷を感じる作業でした。私の場合、数コマの講義科目授業を担当すると、

児童福祉学科 教授 井狩 芳子

退任あいさつ

2022年度末で退任された非常勤の先生方（敬称略）

〈児童福祉学科〉

中山 恭一(2005年4月～2023年3月)〈体育理論・体育実技〉 ※2023年4月より専任教員(助教)

平沼 晶子(2021年4月～2023年3月)〈子ども家庭支援〉

永年、和泉短期大学の教育に貢献していただき感謝いたします。